

平成29年度 地域発 元気づくり支援金事業総括書

事業名	「移動こそ観光に」列車がつなぐこれからの広域観光を考えるシンポジウム
事業主体 (連絡先)	一般社団法人 小布施まちイノベーションHUB (info@obuse-hub.com)
事業区分	産業振興、雇用拡大 特色ある観光地づくり
事業タイプ	ソフト
総事業費	1,738,229 円 (うち支援金：1,300,000 円)

事業内容

長野県の観光課題となっているのは、地域と地域を結ぶ「移動」の時間や方法を、観光資源に変える意識を醸成するシンポジウムを平成29年11月12日長野県小布施町北斎ホールで開催した。

近年、しなの鉄道「ろくもん」で移動時間を「旅を楽しむ時間」へと変える実証をしたデザイナー・水戸岡鋭治氏の基調講演と対談を第1部として開催。第2部では、行政の境界、市町村の垣根を越えてお客様をお迎えするホスピタリティの先駆者、実践で活躍されているインフルエンサーなどがパネラーとして登壇し、町全体でお客様をお迎えする気運を促すシンポジウムが行われ、移動の時間を愉しめるような旅のパッケージや2次交通の重要性が議論された。



【第1部の対談の様子】

【目標・ねらい】

- ①来場者数
- ②広域で周知
- ③成果が見える化して伝える
- ④観光課題を明らかにし次のビジョンを構築する

事業効果

※地域活性化のための目標・ねらいに対してどのような効果があったか、項目毎に記載すること。

県内に広く広報
 広報先 124 箇所、町内関連施設等約 140 か所に周知
 広報は、行政、各地の観光協会、観光関連団体を始めとして、今回のテーマが「列車」ということもあり、県内の観光地アクセスのターミナルとなる駅などを中心に広報をおこなった。交通をテーマとし、しなの鉄道株式会社、中央タクシーなどからも後援を得た。

- ・参加者 311人
- ・文字起こしをして冊子化

※自己評価【A】

【理由】

開催地を評価するというものではなく、現在の観光課題を明確にし、次の展開に繋げる議論ができた。移動という長野県全体に言える課題に対して明確なビジョンを構築できた。

今後の取り組み

※今後、事業効果をどうつなげていくか記載すること。

シンポジウムで終わりではなく、今回の事業をきっかけとして継続して各地が繋がっていく仕組み（情報やインフラ整備）の構築を図る。情報連携に加え、信州の資源を相互に利用することでトータルな旅のなおもてなしに繋がるような具体的な提案をしていく。小布施町観光DMOを立ち上げ、地域の観光HUB的な場や組織を今回の事業をきっかけに構築し、今後の活動の軸としていく。移動の時間を愉しめるような旅のパッケージと提案、実践を本団体でも実施していく。また、2次交通の重要性から既存の移動手段の見直しや、新たな町内移動の開発も視野に入れながら、移動自体を楽しめるようなコンテンツの創出を図っていく。

※ 自己評価欄は、地域活性化に及ぼす事業効果について、以下から選択のこと。

「A」：予定を上回る効果が得られた 「B」：予定していた効果が得られた

「C」：一定の事業効果はあったが事業実施方法や今後の活用等について、工夫や改善を要する点がある